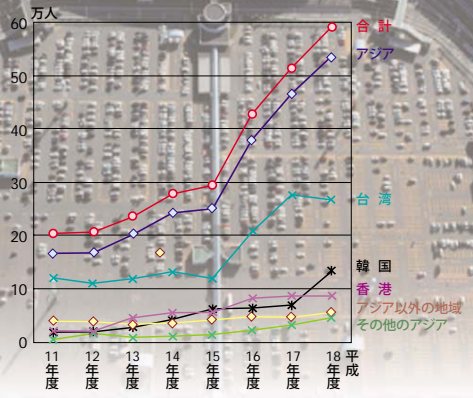
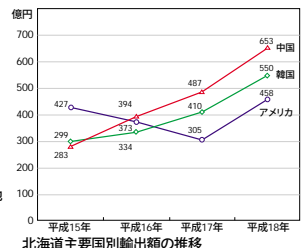


グローバル化への再挑戦①

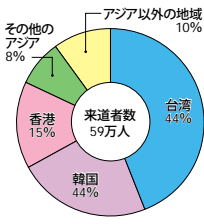
北海道らしさを活かした国際化の推進



外国人来道者数の推移



平成18年度北海道輸出(品目別)



平成18年度外国人来道者数

空港	路線	就航年月	便数/週
新千歳	ソウル線	1989. 6	7
	クアム線	1990. 7	2
	香港線	1990.10	4
	コシノ/ハルニンスク線	2001. 7	1
	上海線	2001. 8	1
	台北線	2003. 3	13
	釜山線	2006. 6	3
	北京線	2007. 4	2
	大連線	2007. 5	2
	函館	コシノ/ハルニンスク線	1994. 4
旭川	ソウル線	2006. 6	3

国際定期航空路

北海道は、欧米先進技術の導入など我が国の近代化を先導してきた歴史を有していますが、その潜在発展力を必ずしも十分に発揮できず、バブル後は経済的低速を余儀なくされてきました。しかし最近では、東アジアからの観光客の増加や農水産物の輸出拡大など、さまざまな分野で国際化の新しい動きが顕著となってきました。

このシリースでは、グローバル化を北海道からのおおらかに開放的なフロンティア精神を發揮して地域の活力に転換していくチャンスととらえ、その現状と課題、今後の展望を探ります。

戦略的な自治体外交の推進

東アジアなど近隣諸国との交流

これまで北海道は、カナダ・アルバータ州、中国・黒竜江省、アメリカ・マサチューセッツ州、ロシア・サハリン州との間でそれぞれ姉妹・友好提携を締結し、学術・文化、スポーツ、経済などの幅広い分野で自治体間交流を行ってきました。

北海道は、国際社会に通用するたくましい地域づくりを進めていくために、独自の戦略を持ち、相互に地域の活性化や地域課題の解決に向けて、主体的に海外との交流や国際的な連携に取り組む「自治体外交」を展開していくとともに、限られた財源と人的資源を効率的に活用するため、「選択と集中」の視点に立った施策の重点化を進めていくこととしています。

前述のとおり、最近、北海道と東アジア地域との間で、経済を中心とした交流が拡大し、またロシア連邦・サハリン州とは、「サハリンプロジェクト」の進展に伴い、北海道から工事関連資材などの輸出が増加するなど、経済的、人的なつながりが深まってきました。

道では、北海道が有する恵まれた自然環境や豊かな農水産物、個性的な文化など、世界に通じる地域資源と、北海道の地理的優位性を活かして、東アジアを中心とした近隣諸国地域との交流の一層の拡大に取り組んでいくこととしています。

地域振興と地域の課題解決に向けた交流

また、これまでの交流を活かし、北米地域とは医療などの先進技術に関する交流や学術交流、民間企業を中心としたIT、バイオなどの先端技術分野の交流など、北海道の産業の発展につながる交流の促進に取り組んでいます。

さらに、国単位の政策では効果的に対処し得ない課題に対し、地域間の協力によりきめ細や

近年、インターネットなどに代表される通信手段の高速化、大容量化や、国際航空路線の増加、輸送基盤の整備による交通手段の発達などにより、人、もの、情報の動きが世界的にさらなる広がりを見せてきています。また、温室効果ガスの削減や森林資源の保全などの環境問題をはじめとした、地球規模の課題への対応が一層重要性を増してきています。

北海道では、このような状況と北海道を取り巻く情勢の変化に対応して、北海道が活力あふれた地域として発展し、世界に貢献していくことができるよう、平成18年3月に北海道らしさを活かした国際化の基本方針や重点化の視点を「北海道国際化推進指針」としてまとめ、この指針の中で、以下のような施策の推進を図っていくこととしています。

北海道ブランドの世界への発信

貿易・経済交流の推進

北海道から海外への輸出総額は、3年前から約45%増加し、平成18年で3088億円となっています。このうちアジア地域が63.8%を占め、国別でも平成16年にアメリカを抜いてから中国が1位となり、現在は韓国が2位になっています。中国への輸出額は3年前に比べ2.3倍と急激に伸びてきており、韓国も同じく1.8倍に増加し、北海道との経済的な結びつきが急速に深まっています。また、品目別の輸出額では、機械機器類が40%を占めている一方で、北海道の特徴として食料品の割合が12%と全国(0.5%)と比べて非常に高くなっています。

この最近の状況は、世界的な日本食ブームやアジア諸国の生活水準の向上を背景に、安全・安心で、優れた品質を持つ道産食品が受け入れ

国際社会との共生環境づくり

外国人が暮らしやすい環境づくり

北海道内には、1万9719人、平成18年12月現在の外国人が暮らしており、10年前と比べると約1.4倍に増えていきます。最近では、農業や水産加工業の現場で、中国などからの研修生、技能実習生が実務に従事しながら技能を習得し、「セコ」地区ではオーストラリア人が起業するなど、外国人が地域経済に関わるケースも出てきています。

このような在住外国人に対する支援として、外国語による生活情報の提供や電話などでの相談対応を行う市町村が出てきていますが、さらに北海道内で生活する在住外国人の増加が予想される中で、外国人、日本人という区別を超えて協力し合う共生社会づくりに向けて、医療に関する多言語による情報提供の充実や災害時対応など、在住外国人が安心して生活できる環境整備を市町村と連携しながら進めていきます。

国際貢献の推進

北海道は開拓の当時から欧米の優れた技術を導入して、地域開発を進めてきており、これまで蓄積してきた地域開発の知識と経験や恵まれた農林水産資源を活かした1次産業の技術、さらには炭坑技術や自然環境保全の取り組みなど、北海道ならではの知識や技術を有しています。

これらの技術を活かして青年海外協力隊や専

られてきた表れと考えられます。

これからも、道産食品などの地域資源を北海道ブランドとして育成し、世界に向けて積極的に情報発信するとともに、企業への商談機会の提供などにより販路拡大を推進していくこととしています。

国際観光の振興

海外からの来道者数は、平成18年度に59万人に達し、3年前の2倍以上に増えています。このうち、アジア地域からの来道者数が9割を占め、国・地域別でも、台湾45.4%、韓国22.7%、香港14.6%の順になっています。

北海道では、これまで鮮明な四季の変化や恵まれた自然環境、地域の食や花など、北海道らしさを海外に向けて売り込み、観光客誘致に取り組んできました。

これからも、さらに観光資源になりうる素材を發揮し、磨き上げるとともに、誰もが利用しやすい受入体制を整備するため、外国語による観光情報の提供や観光案内機能の充実を図るなど、国際的な観光地としての魅力を高めていくことを目指していきます。

交通基盤の整備

これらの貿易や海外観光客の受入に大きな役割を果たしている交通基盤として、現在、北海道と海外を結ぶ定期航空路12路線と、国際コンテナ定期航空路10航路が就航しています。

これから、さらに人やものの流れを活性化していくため、新千歳空港の国際航空ネットワーク拠点化を目指し、国際定期航空路の開設・拡充やチャーター便の誘致などを行うとともに、北海道内の各空港のCIQ体制の整備、国際コンテナ定期航空路の開設など、関係機関と協力して進めていくこととしています。

国際化の推進体制

これらの施策を進めていく上で、住民に最も身近な市町村が行政サービスの中心的な役割を担い、市町村が担うことが適さないものを道や国が担うという「補充の原理」を基本として進めていきます。

そのため、地域における国際交流や在住外国人の支援など、住民に身近な施策は市町村やNPOなど民間団体が中心となって行い、医療などの技術交流や環境保全などの広域的な施策や専門性の高い施策は道が中心となって行なうなど、役割分担を明確にした上で、情報交換や連携・協力をしていくこととしています。

- ※ C/O体制・税関 出入国管理 検疫を行う機関・施設。

北海道知事政策部知事室国際課
国際企画グループ